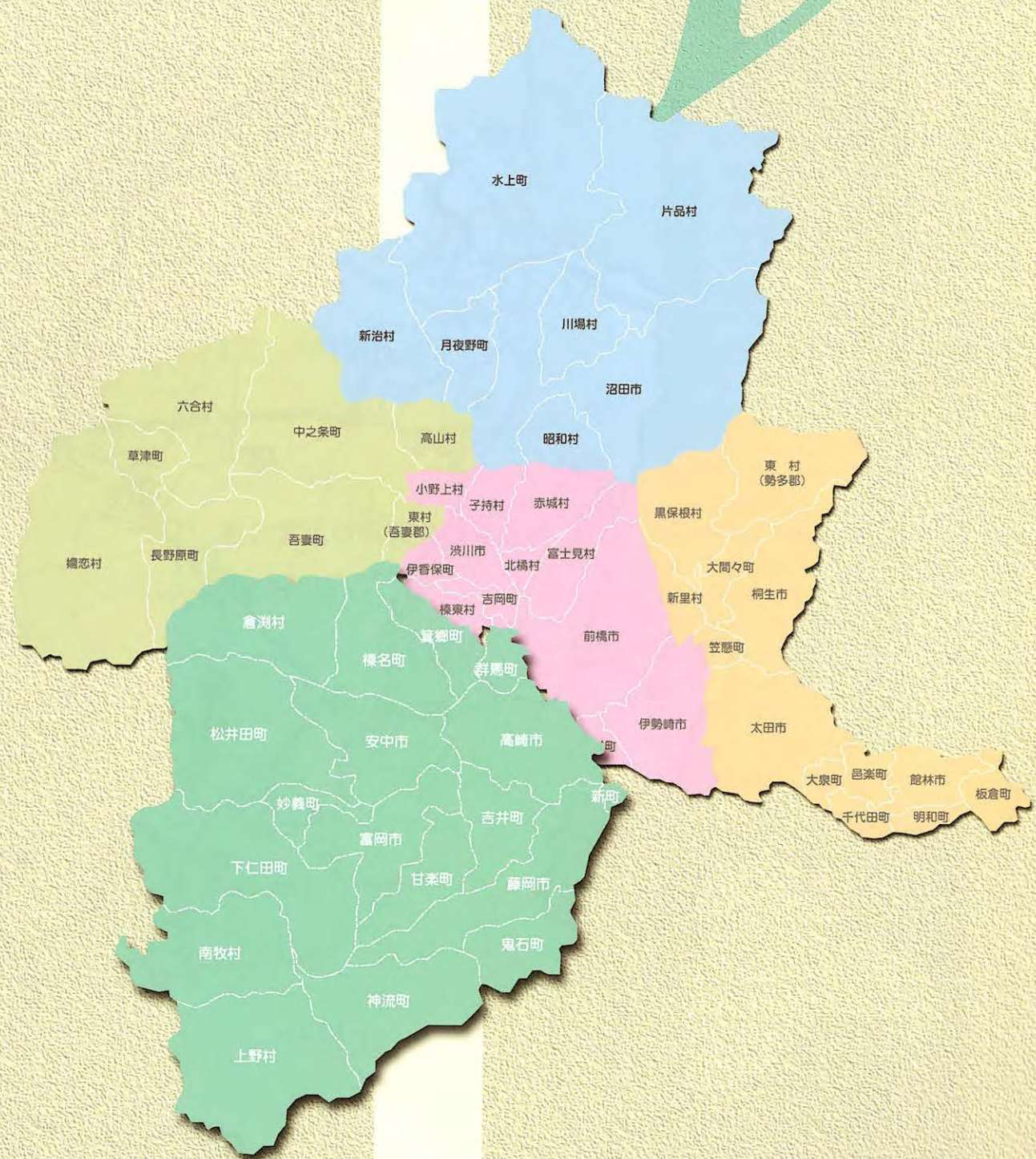


GUNMA AREA

B



AREA B

土木遺産位置分布図



- ① 碓氷第3橋梁 (めがね橋)60
- ② 夢のせ橋62
- ③ 碓氷橋64
- ④ 赤松沢橋66
- ⑤ 遠入川橋67
- ⑥ 霧積川橋梁68
- ⑦ 妙義大橋69
- ⑧ 神橋70
- ⑨ 万年橋71
- ⑩ 蟬橋72
- ⑪ 大日向橋73
- ⑫ 金比羅橋74
- ⑬ 三名湖 (大谷湖) 三名川取水池75
- ⑭ 瀧之橋76
- ⑮ 渡戸橋77
- ⑯ 高崎駅西口駅前広場78
- ⑰ 柳橋79
- ⑱ 城南大橋80
- ⑲ 内山トンネル81
- ⑳ 湯の沢トンネル82
- ㉑ 小坂坂トンネル83
- ㉒ 霧積ダム (霧積湖)84
- ㉓ 下久保ダム (神流湖)86
- ㉔ 道平川ダム (荒船湖)88
- ㉕ 橋倉川堰堤90
- ㉖ 住居附沢川堰堤91
- ㉗ 小幡宿 (雄川堰)92
- ㉘ 高崎市の水道94
- ㉙ 石造り下水溝 (旧官営富岡製糸場)96
- ㉚ 妙義神社の石積98
- ㉛ 碓氷峠の道 (旧中山道)100
- ㉜ 碓氷関所跡102
- ㉝ 中山道 安中杉並木104
- ㉞ 群馬の森105
- ㉟ 藤塚の一里塚106
- ㊱ 倉賀野の分かされ107
- ㊲ 少林山地すべり108

- ④ 岩倉橋 195
- ⑤ 昭和大橋 (公田の渡し) 196
- ⑥ 長野堰 (円筒分水) 196

凡例

- 高速道路
- 国道
- 県道

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000 (地図画像) を使用したものである。(承認番号 平17貼使、第377号)

碓氷第3橋梁 (めがね橋) うすいだい3きょうりょう (めがねばし)



めがね橋のたもとより



かつて機関車が疾走しためがね橋は、アプトの道の折り返し点になっている

概要

所在地 碓氷郡松井田町坂本
 路線名 町道4346号 (旧信越本線)
 年代 明治25年 (1892)
 構造形式 4径間連続レンガアーチ橋
 主要諸元 橋長91.0m 幅員4.6m
 管理者 松井田町



(縮尺 1/50,000)

関連DATA



在りし日を伝えるアプト式軌道の心臓部、丸山変電所



アプト式軌道 (ラックレール)



「碓氷峠鉄道文化むら」と「峠の湯」を結ぶトロッコ列車

通称「めがね橋」と呼ばれる旧信越本線の碓氷第3橋梁は、国内最大級の赤レンガ造りの4連アーチ橋です。平成5年(1993)、我が国で最初に近代化遺産として国の重要文化財に指定されたこの橋梁は、一つの径間が18.3mの4連アーチからなり、この橋に使用されたレンガは20万個以上に昇るといわれています。

碓氷第3橋梁は旧信越本線(当時は直江津線)の横川と軽井沢の駅間に架橋された鉄道橋で、明治25年(1892)に完成しましたが、その後の信越本線の輸送量の増大に伴い、補修や補強が重ねられ現在の姿となっています。竣工当時の橋と比較すると橋脚の太さが約2倍にもなっています。美しい赤レンガ造りの碓氷第3橋梁は、明治5年(1872)に近代国家への礎として建設された官営富岡製糸場の木骨レンガ造りの建物と同様に、全国的にも貴重な建造物で価値の高い土木遺産でもあります。また、旧信越本線は66.7/1000という急勾配の鉄道であるため、国内で最初にアプト式鉄道が敷設されたことでも有名です。アプト式鉄道はスイスのローマン・アプト氏(Roman Abt)が発明したもので、ラックレールと呼ばれる通常のレールの中央部に歯形の金物を設置し、車両に取り付けられた歯車とかみ合わせながら急勾配の地形を登る鉄道で、登山鉄道などに用いられる構造の軌道です。昭和38年(1963)にアプト式鉄道が廃止され、信越本線は複線・電化されましたが、平成9年(1997)の長野新幹線の開通に伴い横川・軽井沢間も廃止されることとなりました。現在、横川駅から旧信越本線の旧線跡、旧線跡を辿って碓氷第3橋梁まで通じる遊歩道が整備され、「アプトの道」と呼ばれています。河床から30m以上もある碓氷第3橋梁からの眺めは迫力たっぷり、一世紀前の人々の努力を感じることができます。遊歩道の散策では、鉄路開設当時のトンネルなどにも触れることができ、横川駅の近くにある「碓氷峠鉄道文化むら」では、アプト式軌道など当時の鉄道資料が豊富に展示され、毎日多くの鉄道ファンで賑わっています。

夢のせ橋 ゆめのせばし



エメラルドグリーン^①の湖面に浮かぶ「夢のせ橋」

概要

- 所在地 碓氷郡松井田町坂本
- 路線名 坂本ダム（碓氷湖）周遊道路
- 年代 平成6年（1994）
- 構造形式 5径間連続PCラーメン箱桁橋
- 主要諸元 橋長150.0m 幅員3.0m
- 管理者 群馬県



(縮尺 1/50,000)

関連DATA



碓氷湖全景。手前に「坂本ダム」、奥に「夢のせ橋」が見える



静かな湖面に優しく映える「ほほえみ橋」



坂本ダム



碓氷湖に通じるアプトの道

夢のせ橋は、碓氷湖を周遊する遊歩道に架橋された四つの橋梁の一つで、国の重要文化財にも指定されている赤レンガ造りのアーチ橋「めがね橋（碓氷第3橋梁）」をモチーフにデザインされています。そのため、橋全体が赤いレンガ張りの構造で、鏡のように静かな碓氷湖のエメラルドグリーン^①の湖面に映る姿は一見の価値があります。

碓氷湖は坂本ダムの建設に伴い生まれた人造湖で、渇水時にはダムからの放流で河川の水量を一定に維持し、河川景観や生物の生息環境を保全するとともに、下流域の営農のための灌漑用水^{かんがい}の確保、水道水の安定供給を目的に造られています。また、平成3年（1991）に坂本ダムがシビックデザインダムに指定されたことを契機に、群馬県では地元松井田町の協力を得て、ダム及びダム周辺地域を古くからの歴史文化と調和した観光資源として再生するなど、碓氷湖周辺環境の整備に努めています。

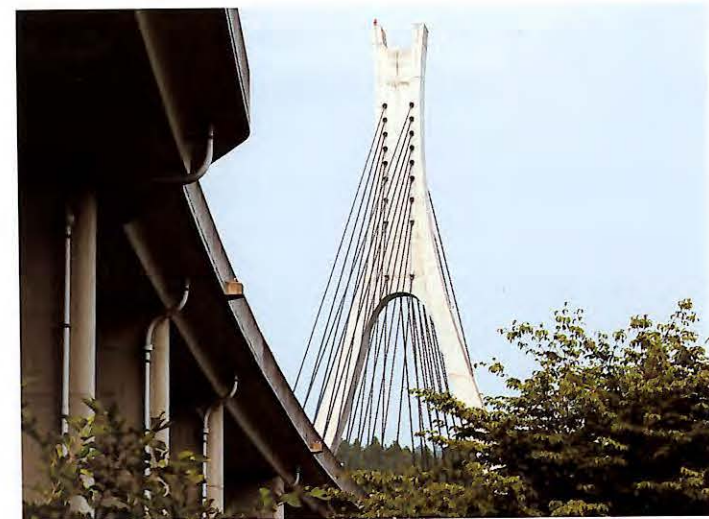
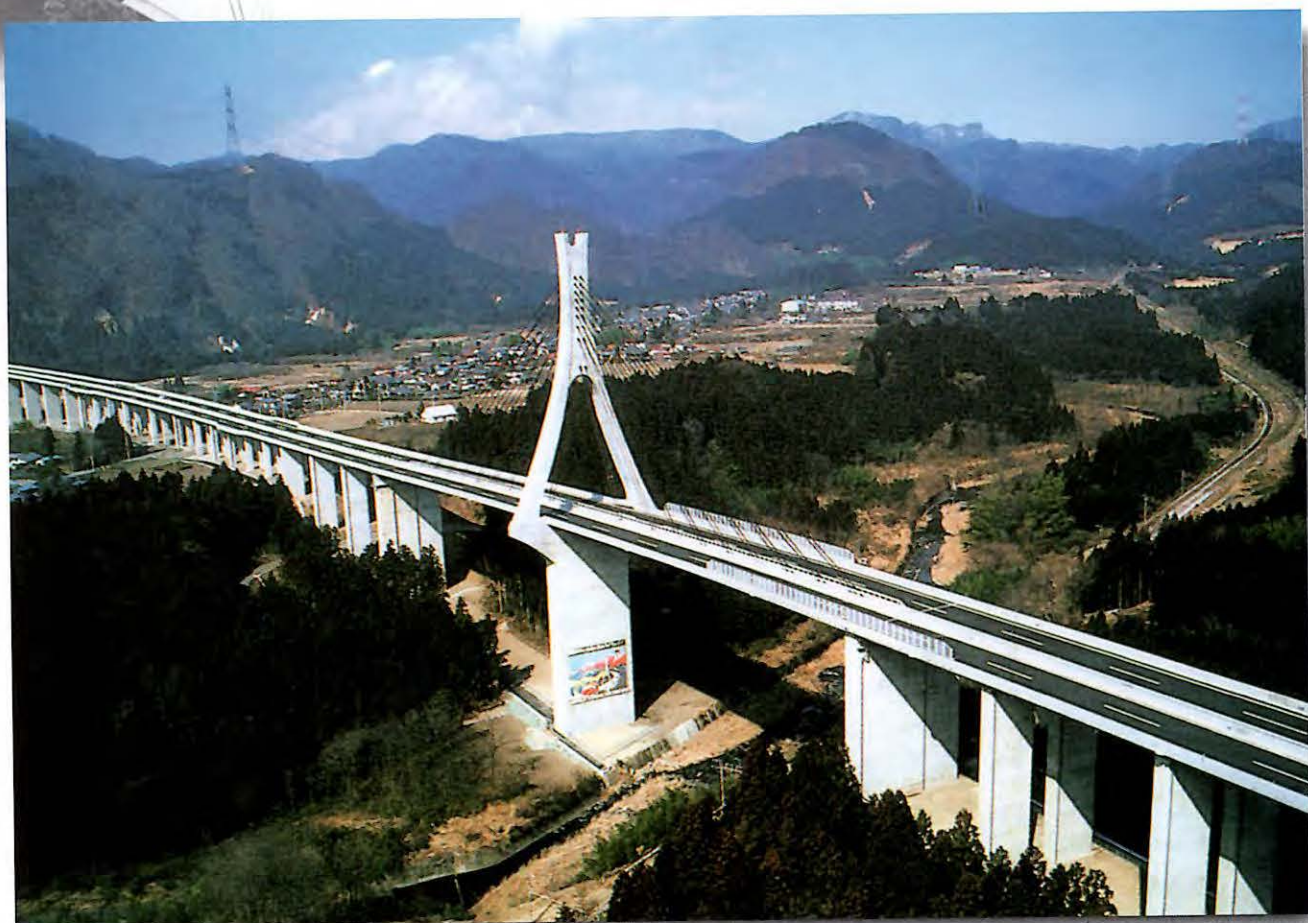
碓氷峠付近には、昭和38年（1963）に廃止されるまで、碓氷第3橋梁を通過するアプト式旧信越本線が通っており、碓氷湖畔からも碓氷渓谷を走る列車を見ることができました。現在は、その鉄道遺産を活かして「アプトの道」というハイキングコースができています。横川駅からアプトの道を通って碓氷第3橋梁の下を流れる碓氷川の渓谷沿いに碓氷湖へ下り、そのまま遊歩道を通って湖を一周する道は、碓氷峠の歴史と豊かな自然を満喫できる人気のコースとなっています。

碓氷湖の周囲約1.2kmを一周するように設置された遊歩道には、個性的な橋とトンネルがありますが、地元の子供たちによって『夢のせ橋』『峠の橋』『ふれあいトンネル』『ほほえみ橋』と命名されています。



家族連れで賑わう碓氷湖畔

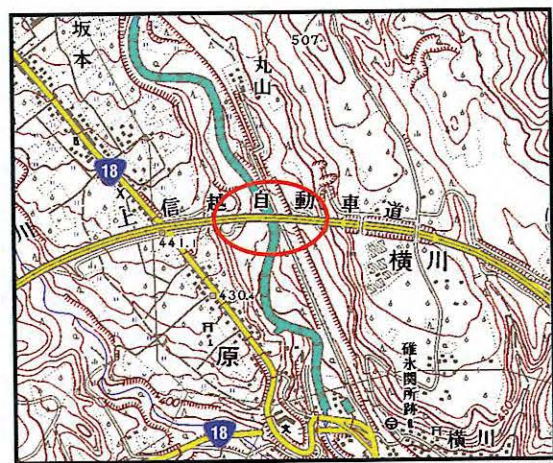
碓氷橋 うすいばし



曲線美を活かした主塔を有する斜張橋

概要

- 所在地 碓氷郡松井田町横川
- 路線名 上信越自動車道
- 年代 平成4年(1992)
- 構造形式 2径間連続PC斜張橋
- 主要諸元 橋長222.0m 幅員8.5m×2
- 管理者 日本道路公団



(縮尺 1/25,000)

関連DATA



大容量ケーブルを用いた張り出し架設



国道18号から見る碓氷橋



碓氷関所跡



坂本宿

群馬県の西部に位置する松井田町は、大宝元年(701)に定められた大宝律令により畿内と地方を結ぶ道路制度による五畿七道(畿内五国と山陽道、東海道、東山道、北陸道、山陰道、西海道、南海道)の一つ、東山道の宿場町と伝えられています。慶長7年(1602)に江戸幕府が定めた中山道の宿として、69次の宿(草津と大津を東海道の宿と扱う場合もあります)のうち16番目が松井田宿で、17番目が坂本宿です。松井田町は、現在でも関東と信越方面を結ぶ交通の要衝で、町内には上信越自動車道の「松井田・妙義」と「碓氷・軽井沢」の二つの高速道路インターチェンジがあります。

上信越自動車道は藤岡ジャンクションで関越自動車道と分岐し、長野県内の更埴ジャンクションで長野自動車道と合流、さらに新潟県上越市で北陸自動車道に接続する高速道路ですが、上信県境の碓氷峠を越えるために多くの特徴的な橋や土木構造物が建設されています。碓氷橋もそれらの一つで、信越本線の廃線敷と霧積川を跨ぐ、高さ113mの白亜の主塔から一面吊りのケーブルでコンクリートの橋桁を支える斜張橋です。滑らかな曲線を描く主塔、その主塔から斜めに張り出されたケーブルは、周辺の山々に負けることのない壮大なシルエットを大空に描き出しています。

平成4年度土木学会田中賞(作品部門)受賞。



碓氷橋遠景

赤松沢橋 あかまつざわばし



「碓氷三橋」の一つ赤松沢橋は2径間連続RC逆ランガー一橋で、この形式の橋としては日本最大です。国道18号から眺望する二連の対称形の眼鏡アーチは雄大で、周辺の山々とも調和しています。アーチ部材を極力薄くした2連アーチは、軽やかで安定した構造とともに経済性、維持管理に優れ、また、この橋の美しいフォルムはデザイン的にも高く評価されています。

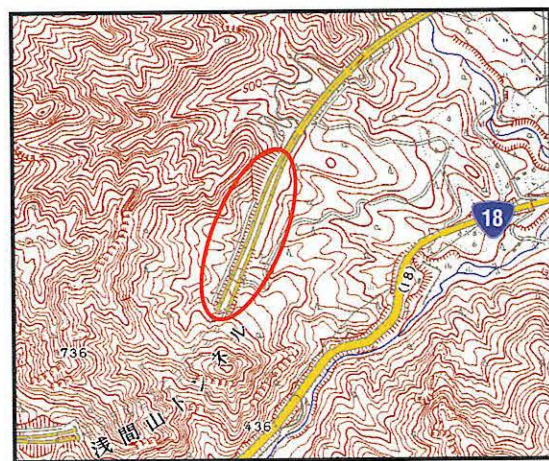
平成4年度土木学会田中賞（作品部門）受賞。



アーチリブ施行中の状況

概要

- 所在地 碓氷郡松井田町原
- 路線名 上信越自動車道
- 年代 平成4年（1992）
- 構造形式 2径間連続RC逆ランガー橋
- 主要諸元 橋長230.0m 幅員8.5m×2
- 管理者 日本道路公団



(縮尺 1/25,000)

遠入川橋 とおいりがわばし



国道18号碓氷バイパスと遠入川を大きなアーチを描いて跨ぐ上信越自動車道・遠入川橋は、碓氷三橋の一つで、遠入川が刻んだ深い谷を川面から100m以上の高い位置で通過する典型的な山岳橋梁です。上下線を一体とした3本の主構アーチは、大空にダイナミックなアーチラインを描き、遠くに見える妙義山とのコントラストはとても魅力的な風景をつくっています。

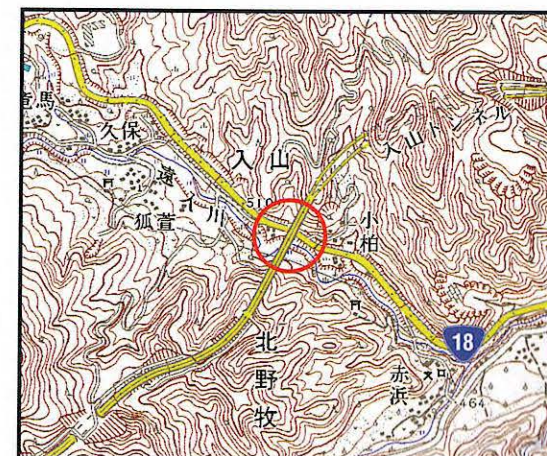
平成4年度土木学会田中賞（作品部門）受賞。



斜吊架設工法によりアーチリブを架設

概要

- 所在地 碓氷郡松井田町入山～松井田町北野牧
- 路線名 上信越自動車道
- 年代 平成4年（1992）
- 構造形式 鋼逆ローゼ橋
- 主要諸元 橋長477.0m 幅員8.5m×2
- 管理者 日本道路公団



(縮尺 1/25,000)

霧積川橋梁 きりづみがわきょうりょう



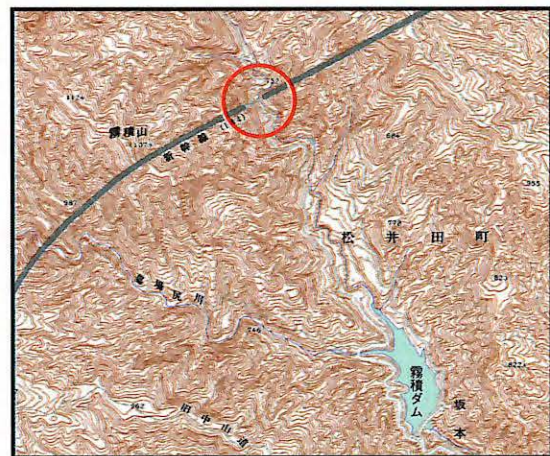
霧積川橋梁は、長野新幹線の碓氷峠トンネルと一ノ瀬トンネルを結ぶ橋梁で、名前の通り霧積川溪谷を跨ぐ橋です。碓氷峠周辺はトンネルが多く、霧積川橋梁は溪谷の中を疾走する新幹線を見ることができる貴重な景勝ポイントです。架橋地点は急峻で、上信越高原国立公園内であることから、橋脚の施工にはロアリング工法が、橋桁の架設には片持架設工法が採用されました。橋脚に用いられたロアリング工法は、地上で垂直に建設した橋脚を補助ケーブルで吊りながら所定の位置まで倒す工法で、国内では極めて希な工法です。



片持架設工法による施工

概要

- 所在地 碓氷郡松井田町霧積
- 路線名 JR長野新幹線
- 年代 平成6年(1994)
- 構造形式 PCラーメン橋
- 主要諸元 橋長110.0m 幅員11.1m
- 管理者 JR東日本



(縮尺 1/50,000)

妙義大橋 みょうぎおおはし



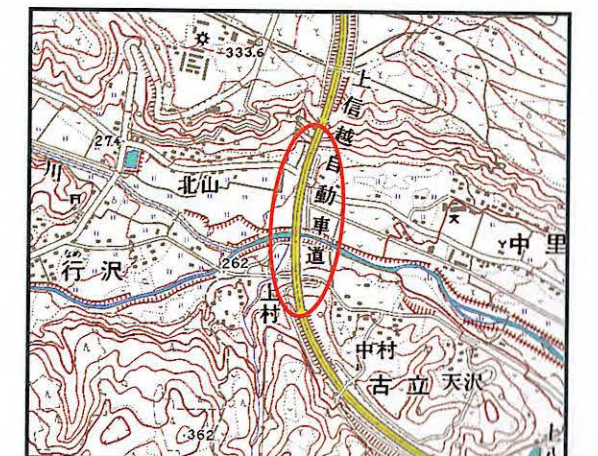
藤岡ジャンクションから群馬県内をほぼ真西に走る上信越自動車道は、下仁田インターチェンジで妙義山の裾野を迂回するように向きを変え、北に向かって伸びていきます。妙義大橋は、上信越自動車道が妙義町西部を流れる高田川を横断する地点に架橋された高速道路橋です。緩やかなカーブを描きながら約50mの上空を走る妙義大橋は8本の橋脚でリズムカルに支えられ、その間からは妙義三山の峻厳な姿を望むことができます。

概要

- 所在地 甘楽郡妙義町高田
- 路線名 上信越自動車道
- 年代 平成4年(1992)
- 構造形式 7径間連続PCラーメン橋
2径間連続PCT型ラーメン橋
- 主要諸元 橋長596.0m 幅員9.3m×2
- 管理者 日本道路公団



妙義三山(金鶏山・金洞山・白雲山)と妙義大橋の夕景



(縮尺 1/25,000)

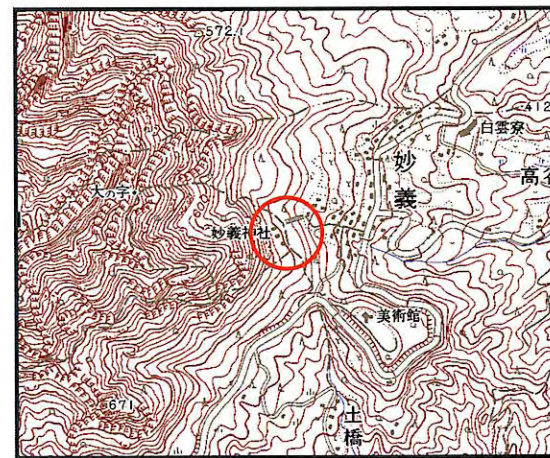
神橋 しんきょう



妙義神社は、奇岩で名高い妙義山の主峰白雲山(1081m)の東山麓にあり、創建は宣化天皇2年(537)に鎮祭したと伝えられる名刹です。元は波己曾大社と称していましたが、後に妙義と改められたとのことです。妙義山は奇岩、怪石が多く耶馬溪(大分県)、寒霞溪(香川県)と共に日本三奇勝と呼ばれ、大正12年(1923)に国の名勝に指定されています。生い茂る老杉に囲まれた妙義神社は信仰の地にふさわしく、清涼で威厳に満ちた広大な社域を有しています。境内の建造物は17世紀から18世紀半ばに建造されたもので、本殿、総門、唐門などは国の重要文化財に指定されています。うっそうと杉が林立する中、華麗な社殿に通じる石段の手前、苔むした小さな石橋が神橋です。この橋が建造された年代は不詳ですが、橋に隣接する碑に「宝永二乙酉歳」(1705)と刻まれていることから、神橋もほぼ同時期に架橋されたものと推察されます。妙義神社は開運、商売繁盛、学業、縁結び、農耕桑蚕の神として知られており、多くの人々が訪れています。人々の厚い信仰心を神様へ伝えて約300年、神橋は今も健在です。

概要

- 所在地 甘楽郡妙義町妙義
- 年代 宝永2年(1705)頃
- 構造形式 石橋(人道橋)
- 主要諸元 橋長4.2m 幅員2.8m
- 管理者 妙義神社



(縮尺 1/25,000)

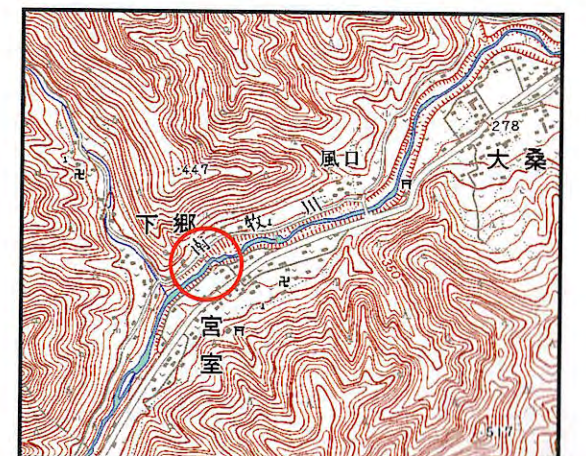
万年橋 まんねんばし



日本には至る所に「万年橋」という橋名を有する橋があります。きっと、その多くは橋が永久に存在し、その地域が末永く発展することを願って命名されたことでしょう。万年橋が誕生して約70年が経過しました。長い橋史を持ち、今日でもその存在感を示しているのは、永い年月にわたり地域の人々に愛されてきたことの証しとも言えます。人々の暮らしを支え、人々を育み、地域の歴史とともに生きてきた橋、それが「万年橋」です。万年の生命力でいつまでもその姿を見せ続けて欲しい、そんな橋です。

概要

- 所在地 甘楽郡下仁田町宮室
- 路線名 町道3141号
- 年代 昭和8年(1933)
- 構造形式 RCアーチ橋
- 主要諸元 橋長35.8m 幅員2.8m
- 管理者 下仁田町



(縮尺 1/25,000)



地球の窓探索のコース「地層の逆転」の箇所として知られる

蝉橋 せみばし



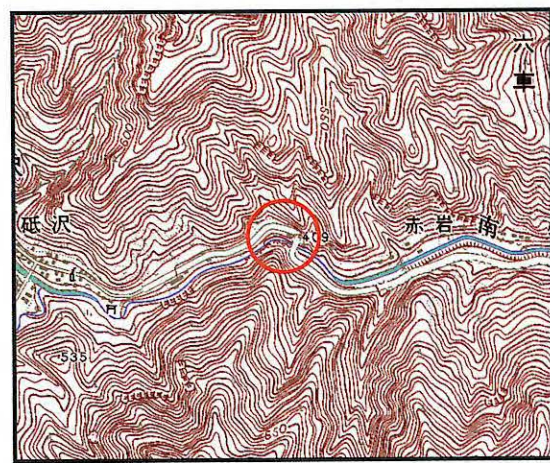
県道93号(下仁田白田線)の蝉橋は、南牧川が形成した「蝉の溪谷」と呼ばれる溪谷に架かる橋です。下仁田から砥沢を経て、信州との国境である余地峠に至る道は古くからの脇往還で、江戸時代には南牧関所が置かれていました。この山深い村落が注目を浴びたのは、この土地が刃物を研ぐための砥石の有名な産地だったからです。蝉橋周辺には、秩父古成層の隆起により形づくられた、個性的な山々が多く、四季を通じて多くのハイカーがおとずれています。



蝉の溪谷と蝉橋

概要

所在地 甘楽郡南牧村砥沢
 路線名 県道 下仁田白田線
 年代 昭和30年(1955)
 構造形式 RCアーチ橋
 主要諸元 橋長18.0m 幅員5.0m
 管理者 群馬県



(縮尺 1/25,000)

大日向橋 おおひなたばし



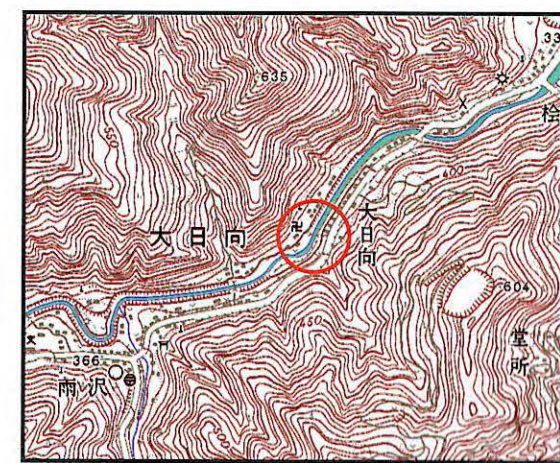
『火とぼし』は県内最大級の火祭りで、県指定重要無形民俗文化財です。その勇壮な火祭りの舞台となるのが大日向橋です。火とぼしの起源は、戦国時代、武田信玄が上州に攻め入った時、地元領主の圧政に苦しんでいた領民が武田軍に加勢し、戦に勝利した喜びを表したことに始まると伝えられています。最近では、毎年8月14、15日のお盆の時に実施されています。辺りが宵闇に包まれる頃、ワラ束に火を付けて橋の欄干から振り回すと炎の輪が夜空に浮かび、火祭りはクライマックスを迎えます。普段は静かな山村に架かる大日向橋も、このときばかりは力強く、活気に満ち溢れます。



南牧の夏の火祭り「火とぼし」の行事

概要

所在地 甘楽郡南牧村大日向
 路線名 村道 大日向橋線
 年代 昭和35年(1960)
 構造形式 RCアーチ橋
 主要諸元 橋長27.4m 幅員3.4m
 管理者 南牧村



(縮尺 1/75,000)

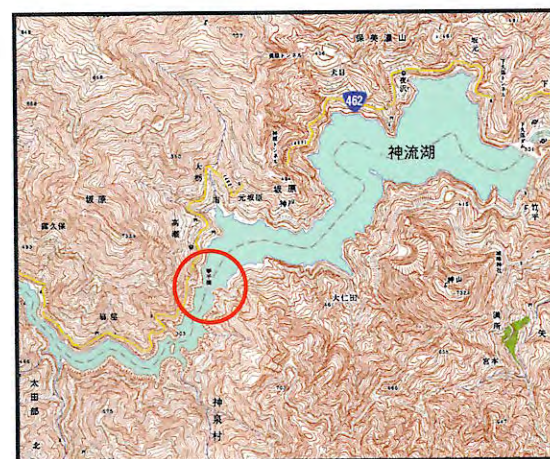
金比羅橋 こんびらばし



ヒスイ色をした神流湖との対称が美しい赤い吊橋・金比羅橋は、左岸側の群馬県鬼石町と右岸側の埼玉県神泉村をつなぐ県境の橋で、昭和42年（1967）に下久保ダム^にの建設に伴い架橋されました。橋の吊り材には、我が国で最初の平行線ケーブルが使用されました。眼下に広がる湖面にはボートが浮かび、コイ、フナ、ワカサギなどを釣る釣り人で四季を通じて賑わい、湖下流の奇観・三波石峡とともに観光の名所となっています。

概要

- 所在地 埼玉県神泉村～多野郡鬼石町坂原
- 路線名 神泉村村道1-9号
- 年代 昭和42年（1967）
- 構造形式 鋼吊橋
- 主要諸元 橋長175.0m 幅員4.5m
- 管理者 埼玉県神泉村



(縮尺 1/75,000)



緑燃える対岸へと伸びる吊り橋

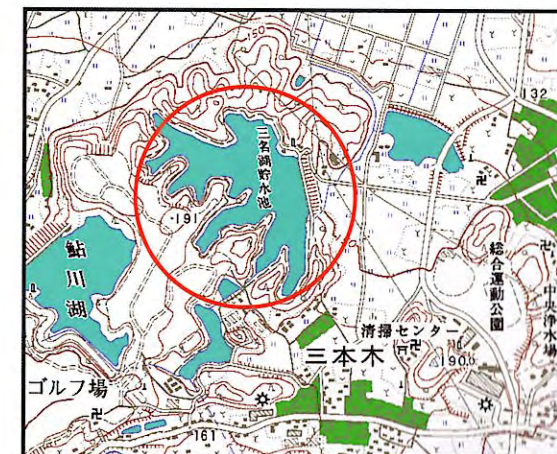
三名湖(大谷池) 三名川取水池 さんなこ (おたにいけ) さんながわしゅすいち



慢性的な農業用水不足に悩まされていた藤岡市にとって、安定した用水の確保は長年の夢でした。三名湖は農業用水の不足を補うために昭和4年（1929）から5年の歳月をかけ、灌漑用の取水池として完成しました。取水池の用水は鮎川と三名川から導水し、周囲4km、面積1.2km²の湖面に貯留された用水で320haの水田を灌漑しています。湖面の周囲は雑木林に囲まれ、サクラ、フジ、ツツジなどが咲き乱れる憩いの名所でもあります。湖面にはボートが浮かび、太公望にとっては関東屈指のヘラブナの釣り場として知られています。群馬の自然100選にも選ばれた美しい湖は、藤岡市の農業を支えるだけでなく、市民の憩いの場として親しまれています。

概要

- 所在地 藤岡市三本木
- 年代 昭和8年（1933）
- 構造形式 アースダム
- 主要諸元 堤高19.7m 堤長218m
- 管理者 藤岡土地改良区



(縮尺 1/25,000)



三名湖の築堤

瀧之橋 たきのはし



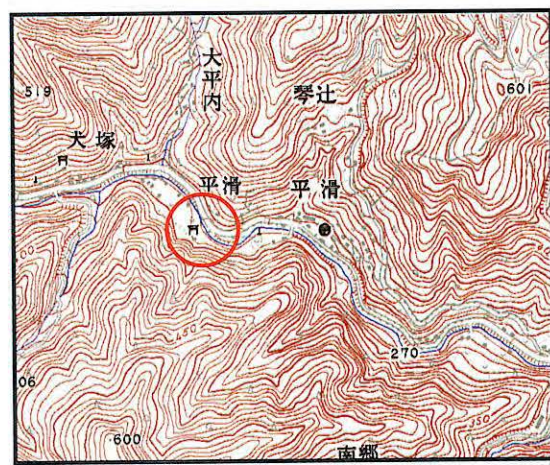
鬼石町は、日本庭園に欠かせない銘石・三波石の産地であり、全国で追い出された鬼を呼ぶ「鬼恋節分祭の鬼呼び豆まき」などでも知られる「鬼と石の町」です。鬼石町中心街から冬桜の名所として有名な桜山を目指し、三波川沿いの県道（会場鬼石線）を数キロ遡ると山の中に小さな琴平神社があります。瀧之橋は、その神社の参道として三波川に架かる朱塗りの木造方杖橋です。昭和38年（1963）に焼失しましたが、翌年に架替られ、その後昭和53年（1978）に現橋が完成しました。



冬桜で知られる桜山

概要

- 所在地 多野郡鬼石町三波川
- 路線名 私道
- 年代 昭和53年（1978）
- 構造形式 木造方杖橋（人道橋）
- 主要諸元 橋長15.7m 幅員1.6m
- 管理者 琴平神社



（縮尺 1/25,000）

渡戸橋 わたどばし



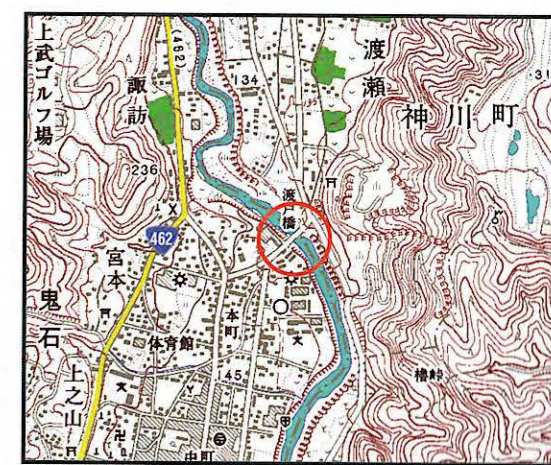
埼玉県との県境に位置し、神流川上流の奥多野（上野村・神流町地域）や秩父方面を商圏とする市場町として発展した鬼石町。渡戸橋は、その鬼石町の中心街と埼玉県神川町を結ぶ県境の橋です。両手を広げたように左右に広がるバランスドアーチの橋桁は、背景となる山々と調和し、美しい景観を創りだしています。鬼石町の歴史とともに往来する人々の生活を支え続けた橋は、石の町『鬼石』を象徴する橋でもあります。



渡戸の渡しを伝える記念碑

概要

- 所在地 埼玉県児玉郡神川町
～多野郡鬼石町鬼石
- 路線名 県道 上里鬼石線
- 年代 昭和11年（1936）
- 構造形式 2径間連続RCバランストアーチ橋
- 主要諸元 橋長75.0m 幅員5.5m
- 管理者 埼玉県



（縮尺 1/25,000）

高崎駅西口駅前広場 たかさきえきにしぐちえきまえひろば



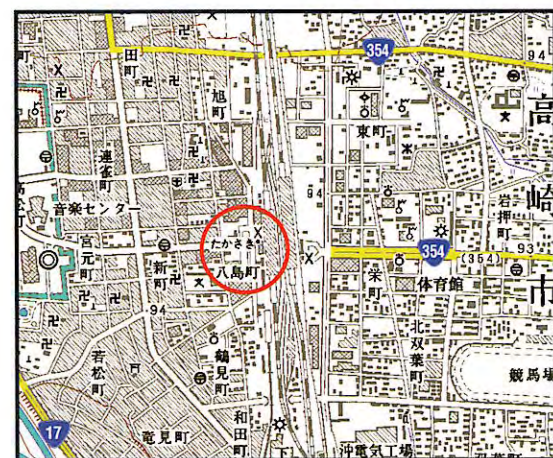
上越新幹線、長野新幹線、高崎線、上越線、信越本線、両毛線、八高線、上信電鉄が集中する一大鉄道ジャンクション・高崎駅。群馬県の玄関口として相応しい、快適で魅力ある街づくりのために、駅舎のリニューアルと前後して整備された高崎駅西口駅前広場には、ゆったりとしたペデストリアンデッキ（駅と建物をつなぐ歩行者専用回廊）が設けられています。この回廊の設置により車やバスなどの自動車交通と歩行者を分離し、駅中央コンコースから駅周辺商店街への安全な交通の流れを実現しています。また、高崎駅には高崎名物の「だるま」をモチーフにした壁画など親しみやすい壁画等が飾られています。平成6年度「手づくり郷土賞」受賞。



駅壁面の磁器レリーフ「だるまの詩」

概要

- 所在地 高崎市八島町
- 施設名 駅前広場
- 年代 平成4年（1992）
- 構造形式 ペデストリアンデッキ
(A=2,227.4m²)
- 管理者 高崎市



(縮尺 1/25,000)

柳橋 やなぎばし



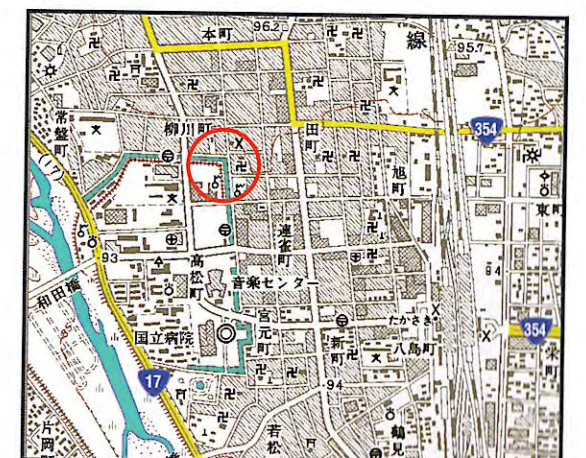
赤御影石の高欄、白御影石の床版。外観からは石橋のように見える柳橋は、お濠を渡り城址公園へとつながる橋です。高欄に詰め込まれたステンドガラスは橋名の由来となった「柳の葉」を表現しています。「人と人が仲良く手を取り合う橋」がデザインコンセプトで、周辺の街並みと調和したモダンなデザインは、建築工芸家・水原徳言氏によるものです。柳橋は多くの市民の憩いの場としても親しまれています。



柳橋のデザインコンセプトは「人と人が仲良く手を取り合う橋」

概要

- 所在地 高崎市高松町
- 施設名 姉妹都市公園
- 年代 昭和31年（1956）
改修 平成6年（1994）
- 構造形式 単純RC床版橋
- 主要諸元 橋長12.0m 幅員3.0m
- 管理者 高崎市



(縮尺 1/25,000)

城南大橋 じょうなんおおはし



高崎市は、関越・北関東自動車道や上越・長野新幹線などの高速交通網とともに、高水準の道路、鉄道、バスなどの公共交通網が整備された都市です。城南大橋は、繁華な高崎駅東口や国道17号と烏川右岸に広がる住宅地や観音山周辺とを結ぶ橋です。烏川、上信電鉄をまたぎ、国道17号とは立体構造と平面構造で交差する効率的な3階建ての立体構造となっています。

概要

- 所在地 高崎市新後閑町～高崎市寺尾町
- 路線名 県道 高崎神流秩父線
- 年代 昭和61年(1986)
- 構造形式 単純鋼箱桁橋5連 3径間連続鋼箱桁橋 4径間連続鋼箱桁橋
- 主要諸元 橋長617.2m 幅員22.6m
- 管理者 群馬県



3階建ての立体構造を持つ城南大橋



(縮尺 1/25,000)

内山トンネル うちやまとんねる



国道254号、下仁田町と長野県佐久市との県境を結ぶトンネルが内山トンネルです。古くより内山峠越え街道は中山道の脇街道として知られ、碓氷峠越えより勾配が緩く通行し易いことから女街道とも呼ばれてきました。峠附近は妙義荒船佐久高原国定公園の中にあり、荒船山、神津牧場、内山牧場などの観光地があります。トンネルを抜けた長野県側の沿道は、シーズンになるとコスモスが咲き誇ることから「コスモス街道」とも呼ばれています。

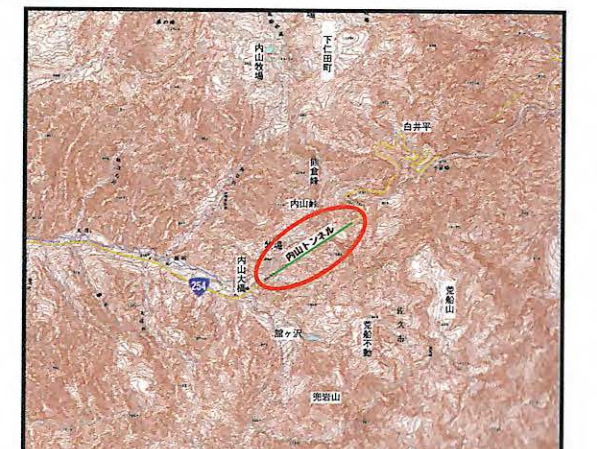
概要

- 所在地 甘楽郡下仁田町南野牧～長野県佐久市
- 路線名 国道254号
- 年代 昭和48年(1973)
- 構造形式 コンクリート覆工
- 主要諸元 延長1255.8m 幅員8.1m
- 管理者 長野県



内山峠

荒船山

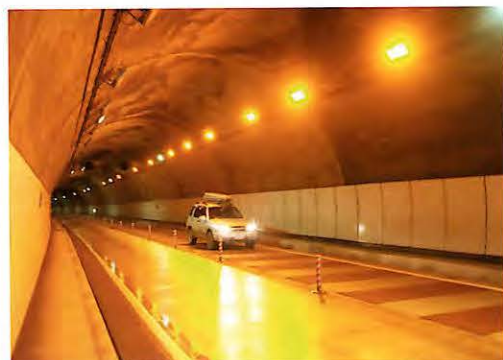


(縮尺 1/10,000)

湯の沢トンネル ゆのさわとんねる



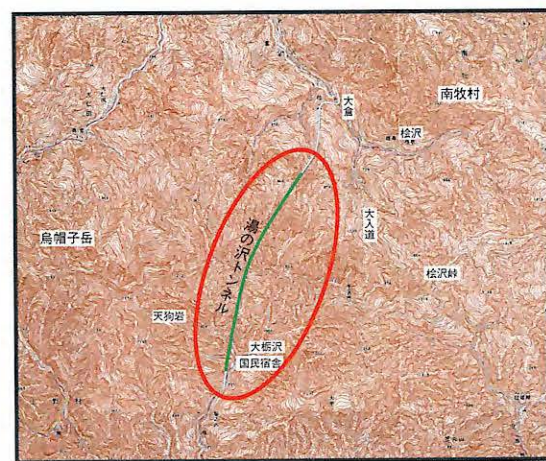
南牧村と上野村を結ぶ湯の沢トンネルは、「ふるさと林道湯の沢線」の中核をなし、群馬県が取り組む「幹線交通乗り入れ30分構想」の一翼を担っています。このトンネルは県管理の道路トンネルとしては最長で、林道トンネルとしても全国第2位の長さです。このトンネルの開通により、南牧村と上野村との相互アクセスが向上し、上野村から上信越自動車道下仁田インターチェンジへの乗り入れ30分構想が実現しました。湯の沢トンネルの開通は、山間地域のより一層の活性化に大きな期待が寄せられています。



下仁田ICへの乗り入れ30分構想を実現した湯の沢トンネル

概要

- 所在地 甘楽郡南牧村～多野郡上野村
- 路線名 ふるさと林道 湯の沢線
- 年代 平成16年(2004)
- 構造形式 コンクリート覆工
- 主要諸元 延長3,323m 幅員7.5m
- 管理者 群馬県



(縮尺 1/100,000)

小坂坂トンネル おさかざかとんねる



小坂坂トンネルは、下仁田街道(現国道254号)が鍋川に沿った現在のルートに付替られるまでの長い間、富岡市南蛇井から千平、小坂坂を越えて信州に至る唯一の道路として賑わっていました。しかし、交通の流れが変わった今日では、トンネルを通行する人も減少しました。

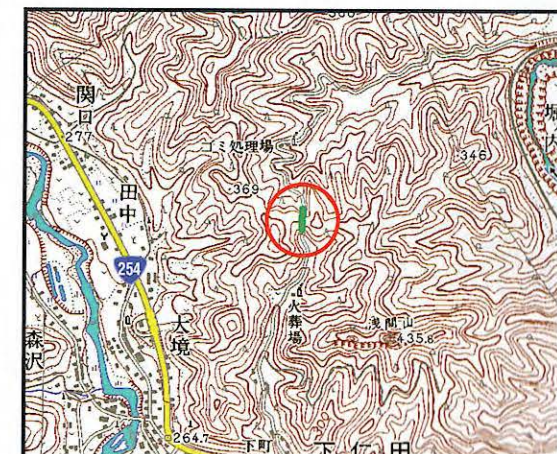
しかし、現在、前後の道路拡張とともにトンネルの拡幅についても検討が進められており、時を越えて小坂坂トンネルは再び目を覚ましつつあります。



ゴツゴツとした壁面が手掘りトンネルの苦勞を偲ぼせる

概要

- 所在地 甘楽郡下仁田町下仁田
- 路線名 県道 南蛇井下仁田線
- 年代 明治25年(1892)
- 構造形式 素掘りトンネル(コンクリート吹付)
- 主要諸元 延長101.0m 幅員2.5m
- 管理者 群馬県



(縮尺 1/25,000)